中国•東北部の旅（2017 年 11 月 22 日-26 日　4 泊 5 日）

小林信生

•この度、現役時代に非常勤講師をしたことがある大学の教え子から依頼されて、中国に出張する機会が与えられ、短かい期間であったが、中国東北部の一端を見聞することが出来た。現役最後の中国出張が2002年であったので、15年ぶりの訪中となったが、今回の出張によって、これまでの小生の中国観は、すっかり塗り替えられた。

•訪問したのは、上海とその近郊の昆山（コンザン）、太原とその近郊の介休（ジェイシュウ）、青島の五都市、そして、欲張りに二つの世界遺産、平遥（ピンヤオ）と泰山（タイシャン）まで足を伸ばした。

上海浦東地区金融街の高層ビル群

青島・宿泊ホテル前の砂浜海岸

青島駅前

•まず、上海、青島などの大都市で感じたことは、

① 自家用乗用車、しかも日欧米製の高級車が多く走っていて、ほとんどの車が新型、かつ、きれいに洗車、手入れされていること（都市部の個人所得はかなり高いと思われる。）

② 道路は以前からも広かったが、加えて、穴ぼこなどなく、きれいに舗装されており、ごみも少ないこと（街角にごみ箱が多数設置されていて、インフラ整備が進んでいる。）

③ 自転車がバイクや電動自転車に代わったこと（都市中心部、随所にレンタサイクル•デポがあって、スマホ操作で自在に借りられる。）

④ オフィスビルは高層化し、昔の古い街並みはどんどん建て替えられていること、（都市中心部の近代化は、急速に進んでいる。）

⑤ フィンテックが物凄いスピードで進化しており、BtoC、CtoC決済がスマホで済ませること（友人の奥様は、この一週間、現金にぜんぜん触っていないと言っていた。）

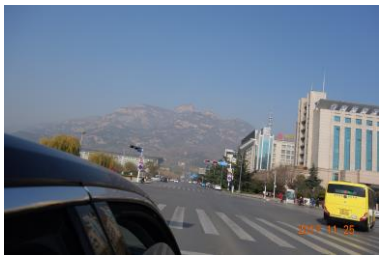
一旦、都市部を離れると、昔のままで雑然とした場所もあるが、以前よりも明らかに、生活水準が高くなっていることが認識された。

特に、中国は、先進IT技術の導入に貪欲で、安全性•確実性•正確性などを石橋叩くように慎重に進める日本のやり方とは異なる。まず走りはじめ、それから考えるというスピードには、ある面で魅力を感じる。

•世界遺産に認定された平遥と泰山については、世界遺産認定の条件でもあったと思うが、たいへんよく整備されており、外国人旅行者に親切な案内看板が設置され、トイレも清潔になっている。日本の観光地とあまり変わらず、快適に見学できるようになった。物乞いや、お土産売りはいるが、しつこくない。

平遥古城前広場

平遥古城内に入る城門



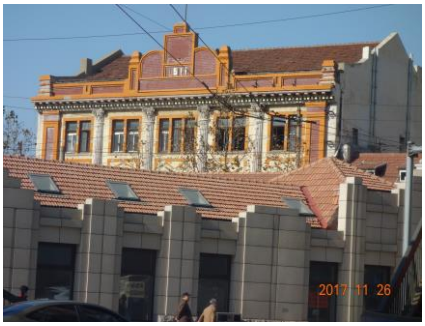
泰安市街（奥に泰山が聳える）

•以下、個別の事柄について、述べてみたい。

A. 上海市街は、中国一の国際都市である。北京は行政の中心だが、上海は金融、商業の街であるので、本当に活気に溢れている。世界のブランド店が立ち並び、ニューヨーク、ロンドン、パリなどとあまり変わらない。特に、浦東地区の金融街には、高層オフィスビルと高級マンションが立ち並んでいる。マンションは、六本木、広尾などよりも値段は高いと聞く。

上海浦東地区の中心部　　浦西地区の商業地、古いビルは壊され、高層ビルに建て替わっている

B. 青島市街は、戦前、ドイツや日本の租界があって、当時から先進都市であったと思われるが、そのDNAは今でも感じられる。上海と同様、美しい街である。特に、来年 6 月にG－20会議が青島で開催される予定とのことで、それに備え町は急ピッチで整備されている。旧日本人街に行ってみたが、ほとんど取り壊されているか、開発待ちの状態で、今はその痕跡は定かではない。しかし、欧風洋館は、海岸沿いで風光明媚な一等地に多く残っていて、現在も稼働中であり、中でも、八大関別荘地区内にある蒋介石が住んだという花石楼は観光スポットとして有名である。



花石楼（蒋介石記念館）　　1911 年と書かれた洋館　　蔦の絡まる瀟洒な洋館

青島と言えばビールの本場、青島ビール本社とその門前にあるビアホール群（ビール通り）

C. 訪問した二つの世界遺産

①平遥古城⇒山西省晋中市平遥県の古い城塞都市。省都•太原から南へ 100 キロの地点にある。1997 年に世界遺産に登録された。都市の周りは 6162.68 メートル、総面積 2.25 平方キロメートルあり、300 年の歴史。中国内において、保存の状態が最もよい明清時代の古代県城。城壁内には、商業施設や役所、市場の位置などが当時そのままに保存されており、現代でも、都市機能を十分果たしている珍しい都市となっている。ここは、晋商とよばれる山西商人の拠点であり、特に清代末期は為替業務で栄えた中国の金融中心地であったが、20 世紀後半には貧困地域に転落した。（ネットより引用）

城壁内外の様子（城壁内は狭い路地、中心街はお店が立ち並ぶ）

2時間ほどしか時間がなかったので、古城内をゆっくりと見て回ることが出来なかったが、小生が元財務マンであったと話したら、「日昇昌記」という中国で最初に設立された銀行を案内してくれた。

「日昇昌記」は、城内のほぼ中心部にあった。「記」とは、日本風に表現すれば越後屋とか大黒屋の「屋」に相当するそうだ。清の道光3年（1823）に興った中国最初の為替銀行だったそうで、商取引の決済機関として、遠隔地間決済に活用されたとのこと。清朝から民国期にかけて、この街には全国に影響力をおよぼす 20 以上の銀行が割拠したそうで、その中で、最初に設立されたのが、「日昇昌記」である。

日昇昌記の玄関　　中庭の周りに各事務所が　　出納所

創始者の雷履泰氏　　当時流通していた銀貨　　中庭の一つに立って

②<u>泰　山</u>⇒山東省に位置している泰山を含む山岳地帯は、1987 年に世界遺産として登録された。

泰山は、中国の思想的・文化的基盤となってきた「道教」の聖地と考えられている。紀元前の時代、秦の始皇帝がこの地で「封禅」という儀式を行ったと言われており、それ以来、この地は、多くの歴代の皇帝たちによって封禅の儀が執り行われてきた。そのため、道教に関する建造物が多数建造されている。また、多くの文化人たちが、この泰山をモチーフにして、優れた作品を数多く残していることでも知られている。

このように、泰山は、非常に由緒正しく、また、神聖な山であるため、現在でも、道教の聖地である「中国五岳」の中でも、その代表格として、多くの人々から崇敬の念を集めている。（ネットより引用）

泰山登頂は、本来ならふもとから直登する7000段あまりの階段を登るのが正統であるが、小生には、到底、無理なので、バスとロープウエーを使って、登ることにした。

世界遺産登録記念碑　　記念公園の正面（後ろが泰山）　　バスをおりてロープウエー駅まで
約 300 段の階段を登る

•青島駅から泰安駅まで約3時間の新幹線は、とても快適であった。泰安駅から30分ほどタクシーに乗って泰山山麓公園で降り（そこから先、一般車両は入れない）、専用バスに乗り換え、中天門のバスターミナルへ。ロープウエー乗り場は、バスターミナルから300段ほど階段を上がった所にある。ロープウエーは、8人乗りで日本のスキー場にあるものと同じである。約20分で南天門へ。そこから頂上までは、100段ほどの階段が、各所にあって合計で400段ほど登ると、泰山山頂の祠（玉皇頂、標高1545M）に到着する。

ロープウエーの頂上駅　　これが直登の階段、少し降りて
あたかも登ったような顔！　　天涯門　　天涯門内で小休止
（ここから先が頂上の聖地となる）

石刻涯（有名書家が彫っている）　「五嶽独尊」の岩　最後の階段　やっと頂上にたどり着く

玉皇頂の道教の祠　　祠前に頂上を示す石碑が並ぶ

おわり

戻る（ブラウザ左上に戻って下さい）